

第2回プロジェクト奨励賞交付者一覧

団体・個人	代表者	所属	申請テーマ	テーマの目的	期待される効果	評価	奨励金
荒キャン東北応援隊(ATO)	佐々木 啓輔	健康福祉学部理学療法学科3年	岩手県陸前高田市での仮設住宅でのボランティア活動	今もなお仮設で暮らす方々の交流の場をつくり、活動を通じて孤立防止に努める	交流の場の提供・住民のつながりをつくり、この住人のつながりを新たな形で、地域の方々へも広げてゆく	継続的な活動である。ボランティアとして、東日本大震災に係わることは有意義である	150千円
TMU☆CAN	小林 悠也	システム デザイン学部 航空宇宙システム工学コース 2年	超小型模型衛星カンサットの製作活動	超小型模型衛星カンサットの製作活動を通じて、宇宙工学の技術者・システムエンジニアとしてのスキルを実践的に習得する。	宇宙工学におけるシステムデザインの手法の習得。ARLISS2014に参加することによって他大学との交流、技術交換を深める。これにより、首都大学東京の知名度の向上・存在価値を高めると同時に中高校生に宇宙航空分野への関心を持ってもらう。	以前からの継続の活動であり、評価できる	100千円
ツーリス	湯舟 佑樹	都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース 4年	学生観光まちづくりコンテスト	実践的コンテストに出ることで、これからの観光業界で求められていることを把握し、首都大学東京が質の高い総合型観光学系を有していることを認知してもらうことを目的とする	観光業界に係わる企業・行政機関が「観光まちづくり」をどうとらえて、大学との考え方の違いがどうなのか？それらを見て、学生は、大学での学びと実践的場から学んだ考えを併せて、高度な観光人材に近づくことができるし、首都大学東京を業界の関係機関にアピールできる	授業での知識を活用しての実践的な提案である。近隣市との提携も考えることが必要ではないか	100千円
TMU-SFC・体験！化学実験実行委員会	安藤 遼太郎	都市教養学部化学コース3年	大学祭期間中に開催する「体験！化学実験2014」及び、学外で実施する「出張！化学実験教室」	「身の回りに潜む化学」をテーマに、科学の面白さをより多くの人に伝え、その中で首都大学東京の学生としてのスキルアップを図る	1) 中・高校生の理科離れの緩和 2) 学生自身のスキルの向上を図ることによって、現在社会で求められる人材として成長できる。 3) 首都大学東京の認知度・評価の上昇	毎年、大学祭・近隣の中学校への出張授業を行っており、好評を得ている	100千円
個人	高井 宏恵	都市教養学部 政治学コース	OB・OGと在校生との交流促進(シンポジウム・交流会・Web)	東京オリンピックによって注目されている首都大生に、OB・OGと交流することによって、自分の社会人としての未来像を見つけてもらう。	1) 在校生が、OB・OGと自分を重ね合わせ、今、何をすべきなのか？何が出来るかを考える手助けにする。 2) OB・OGの活躍を知ることによって、未来の自分の姿をイメージし、首都大に誇りを持たせるようにする。 3) OB・OGのアドバイスによって、社会人として活躍するためには、どのようなことを目標とすればいいかなど、在校生のうちから社会を担う一員としての概念を理解させる	MeCが、事業として行っていることであるが、現役学生の参加者を集めることが難しい。学生から提案されたことは、評価できる今後、このような活動を通じて、社会へ出た時の心構えを学ぶことも期待できる	50千円